

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092100019		
法人名	株式会社さくらメディカル		
事業所名(ユニット名)	グループホーム松風みはま ユニットさくら		
所在地	和歌山県日高郡美浜町和田824-9		
自己評価作成日	令和3年1月29日	評価結果市町村受理日	令和3年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jigyosyoCd=3092100019-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和3年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園風景が広がる自然豊かな環境に立地しています。同敷地内に当法人が運営するグループホームがあり、より良いサービス提供に向け、困難事例の共有、サービス提供状況の共有等、互いに協力し合っています。重度化への対応や看取り介護が増えていく中で、入居者様や家族様のニーズに応え、安心した生活の場を提供できるよう、常勤、非常勤の看護師を3名配置し、医療と介護の連携を密に図れるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園地帯の静かな環境にグループホーム2事業所とデイサービスが併設しており、グループホーム間やデイサービスとの交流が頻繁に行われている。経営については、他県の医療機関が行っており、医療の専門的な視点から体調管理や重度化予防に力を入れている。グループホームには、義務付けのない看護師が日勤常駐で、夜間や深夜はいつでも連絡が取れるオンコール体制を整えている。往診や通院時は、看護師が同席又は同行し、日々の状態を報告して医師の指示を受け、介護スタッフに申し送りを行うことで些細な体調変化にも早急に対応できている。昨今のコロナ禍においても、感染予防対策で玄関とリビングに加湿機能付きの空気清浄機を追加購入し入居者の安全第一を考えられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を基に「ゆったり楽しくみんなでいこか」というユニット理念を掲げています。ユニット内、事務所に掲示し意識付けを心掛けています。	外部評価の提案を踏まえ、経営母体の理念がある上に馴染みややすく親しみやすい文言を用いた各ユニットで考えられた理念を加えている。理解しやすい言葉のため、スタッフと入居者が合言葉のように共に実践に繋がっている。会議の進行表などにもユニット理念が記載されている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域サークルや家族様が属しているサークル、近隣の保育園とも交流していましたが、コロナの感染予防のため、全て中止させて頂いております。	コロナウイルス感染症予防のため、地域交流は行えていないが、ホーム周辺の散歩で偶然会った時には挨拶を交わすなど、今までの交流の経緯から関係性は良好である。コロナ収束後は、中学校の職業体験の受け入れや保育園との行事交流、銭太鼓サークルの訪問などの再開を考えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が話し合い等で使用して頂けるよう開放しているが、コロナの影響にて機会はありません。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響により、資料配布の対応をさせて頂いています。状況を見て、数名程度の出席を想定した会議ができないか検討しています。	コロナ禍による自粛前までは、入居者の活動や外部評価の報告など近所の方も参加して開催していた。現在はコロナウイルス感染防止のため文書にて、資料の配布のみになっている。今後、状況を見ながら感染予防対策を講じた上で、少人数での開催を考えている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より困難事例や加算算定の不明な点等、市町村担当者に相談させて頂いております。市町村からの要望にも応じ、協力関係を築いています。	行政へは書類の提出時に運営上の要件などを尋ねることが多く、急ぎの場合は電話を利用して確認している。役場や包括センターから対応困難ケースの相談を受けて対応することがある。役場広報誌により、地域のことを確認し、民生委員との連携にも取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回、身体拘束廃止に向けた研修を行い理解を深めています。運営推進会議でも身体的拘束等適正化委員会を設置していますが、コロナの影響により実施できていません。	研修計画に、2回身体拘束のテーマを入れることを考えている。身体拘束を広い意味で捉え、日々のケアにも注意を払っており、入居者に待ってもらう場合にも具体的な理由も伝えるようにしている。玄関のドアは、夜間のみ防犯のため施錠しているが、日中は開錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関しても年2回研修を行い、日頃のケアで虐待に近い行為をしていないか確認しあい、意識が高まるよう努めています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症の人の権利擁護、成年後見制度等に関して研修計画に組み込んでいます。また、成年後見制度の必要性がある場合、市町村担当者と協力し支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、必要書類を説明していく中で、随時不明な点がないか確認し、理解、納得ができるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や電話等で頂いた意見、要望等はユニット若しくは事業所にて検討し、サービス又は運営に反映するよう努めています。	個々の要望について、可能な内容であれば運営に活かせるよう取り組んでいる。現在は、電話にて意向の聞き取りを行っている。コロナウイルス感染防止の観点から、面会は原則禁止としながらも、緊急時や直接訪問された場合は、相談室で距離を取り感染予防対策を徹底した上で行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務や運営に関する提案書や質問書を活用したり、毎月行っているユニット会議にて意見、提案できるようにし、検討し反映できるよう努めています。	経営母体と管理者やスタッフ間の関係性が良好であり、会議以外の場でも随時、意見・提案が出されている。現場スタッフの意見で必要と判断された物品は、ほぼホーム管理者の決裁で購入している。入居者のためのマットレスなど、早急な手配で購入し状態の悪化を予防できたこともある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家庭環境や本人の希望に合わせて、パートから常勤、常勤からパートへの変更や、シフト調整を行う等、働きやすい環境になるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得支援の一環で研修費用を負担したり、社外研修を希望する場合は出勤日を調整したり等支援しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響で互いに行き来することはないですが、近隣のグループホーム、居宅介護支援事業所等の関係者に相談させて頂いています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居までに本人様や家族様に面接する中で、困っている事や要望等を聞き、なるべく不安な事を軽減し、サービス導入ができるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込や面接時等に家族様の不安や要望を聞き、関係を築いていけるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様や家族様が必要としている支援を見極め、他サービスの必要性、要望があれば対応する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の意思や希望を大切に、日々の生活を過ごしやすい環境づくりに努めています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	特定の面会時間を設けず家族様との時間を過ごして頂いていましたが、コロナの影響で緊急時以外の面会は控えて頂いています。電話でのやりとりを希望される場合は対応させて頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の方にも気軽にお越しいただき関係が途切れないよう支援していますが、コロナの影響で面会は控えて頂いております。	現在は、コロナ禍で面会制限を実施しているが、状況を見ながら相談室で感染防止対策を講じたうえで、面会ができる用意をしており、訪問者用のフェイスシールド等も備えている。馴染みの関係ができる限り維持できるように配慮されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を把握し、席の場所を変更したり、他ユニットの入居者様と関係が築けるよう努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も本人様や家族様の近況を尋ねたり、必要に応じて相談等も受けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に本人様又は家族様に生活についての意向を聞き取り、意向に沿えるよう努めています。	本人や家族の意向は、様々な方法で把握するようにしている。意思疎通の難しい方は表情や家族の意見を参考にしている。日々の思いや意向は日誌で申し送りを行い会議でも共有している。記録の記入の研修も実施して具体的な客観的表現に統一している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様の生活歴や慣れ親しんだ環境等を本人様や家族様から聞き、サービスに反映できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌や申し送りノートを活用しながら情報を共有し日々の状態把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に一度又は状態の変化に応じて適宜ケアカンファレンスを開き、現状の課題点や問題点について検討している。また、本人様や家族様の意見や要望を反映した介護計画作成に努めています。	計画書作成には、カンファレンスを開催して、スタッフや医師の往診時や受診に付き添う看護師の意見を反映させている。ケア内容は細部に渡り具体的に記載されており、モニタリングも全スタッフが目標の達成度や状況確認を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式の生活リズムパターンシートを活用し、日々の活動や気付いたこと、異変等を記入している。職員間で情報を共有し介護計画、ケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や家族様の状況の変化により新たな課題が出てきた際、必要に応じて支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族様や関係者等との情報交換に努め、本人様の持っている力が発揮できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様や家族様の希望を伺い。適切な医療が受けられるよう支援しています。また、必要に応じて受診介助も行っています。	入居時に以前からの医療機関を継続するか提携医に変更するかを選択できる。継続する医療機関が往診可能であれば提携医以外の往診も受け入れている。往診時は、看護師が立ち合うとともに、受診の場合も、看護師が付き添い日々の状態を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は日々の健康チェックを行い、介護職員は異変や気付いた点があれば看護職員に報告し連携しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、退院時に病院関係者と情報交換を行い、安心して治療できるよう関係作りに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に当事業所での方針や出来ることを説明し、重度化や看取り介護についての家族様の意向を書面で確認しています。	入居契約時に書面で看取りについての意向確認は行いが、気持ちが変化した時や重度化した時には、看護師を交えて意向を再度確認している。ホームは看取りケースの受け入れは可能であり実績がある。看護師が日中勤務の体制であり、夜間はオンコールで24時間対応を行える。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルを作成し全職員が閲覧できるようにしています。また、職場内研修の機会も設けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練を年2回実施しています。例年であれば訓練指導員にお越しいただくが、コロナの影響により今年は自主訓練で実施しています。	年2回の防災訓練は、入居者も参加して実施している。火災には自動通報システムで消防署に連絡がされる。地震対策では、ホームの立地場所への津波到達は最大2mとされており、消防の指導により、2階への垂直避難が推奨されている。人数分のライフジャケットや食料品と飲料水等の備蓄があり、定期点検を実施している。	日中の防災訓練は、スタッフや入居者が参加して実施し、スタッフ人数も多く避難に余裕があるが、災害は、いつ起こるかわからないため、夜間での状況の違いに対応できるよう、夜間を想定した訓練も取り入れることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のコミュニケーションや対応をする中で、個々のプライバシーを損ねないように、またより良い関係が築けるような声掛けや対応を心がけています。	接遇をはじめとするコミュニケーションについては、相手の尊厳やプライバシーを損ねないよう細心の注意を払っている。呼び方も、基本は苗字として、本人が親しみやすい場合は名前としている。また、個人情報は鍵付き書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらからの一方的な押し付けにならないよう、入居者様の希望を聞き自己決定できるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりの体調や気分を伺い、業務を優先せず希望に応えられるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の望む格好やオシャレが出来るよう支援しています。女性の方ならマニキュアをしたり化粧をしたり等。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好を把握し希望に沿えるよう支援しています。また状態に応じて形態や食材を変更したりしている。下膳や食器拭き等を出来る方にはして頂いています。	食事メニューは豊富にあり、季節メニューや行事食を加えて1ヶ月毎に献立を決めている。個々の状態に適した刻み食やミキサー食、又はとろみをつけるなどで食べやすくしている。入居者は、できる範囲で皮むきや下膳と片付けで参加している。月に2回は入居者が参加できるおやつ作りを実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じて食事量を調整したり、食事時以外でも水分補給を促しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは個々の力に応じた対応や補助を行い、清潔保持ができるよう努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや出来る能力を把握し、トイレでの排泄やおむつ使用の頻度を減らす等、自立した排泄が出来るよう努めています。	日々の観察により個々の排泄パターンを把握しながら、きめ細かいケアが行われていることから、排泄機能の維持ができて入居者が多く、入院中に低下した排泄機能を改善したケースがある。ポータブルトイレを利用したり、おむつから紙パンツさらには布パンツへの移行に積極的に取り組む等、一人ひとりの力を活かした支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動、食事等を一人ひとりに合わせて提供している。また看護師と相談し、必要に応じて主治医と連携し対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴も楽しんでいただけるよう、体調やタイミングを見計らって、入浴時間の調整や介助者を希望に浴えるよう努めています。	入浴拒否する入居者もあるが、タイミングを考え、翌日に声かけする等工夫を行い、隔日か三日に一度は入浴してもらえるよう努めている。柚子湯の季節湯で入浴を楽しんでもらえるようにしている。基本は午後からの入浴としているが、必要時は午前中や夕方にも対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを整えストレスが軽減できるように、また安心して休息できるよう配慮し、リラックスして眠れるよう心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当して頂いている薬剤師又は主治医と情報共有し服薬支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝いやレクリエーション作業、気分転換になるような行事を考え、楽しみや張り合いになるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響により外出は自粛しているが、近隣への散歩程度は支援しています。	コロナ禍での外出は、ホームの駐車場や周辺の散歩に限られているが、気分転換を考慮し、プランターで育てている花の水やりなどで外気に触れるようにしている。コロナ収束後には、喫茶店へのドライブやお花見で地域の名所に出かけるなど楽しみにしていた外出や自粛期間に企画した場所も加えて再開させる予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様の了解の基、少額のお金を本人で管理されている方もおられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望に沿えるよう家族様や友人の方と電話で話せるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のリビング、廊下は生活感に配慮し飾りつけを最小限にし、作品等の展示は専用スペースを設けています。また、職員の発する音にも注意し居心地がよくなるよう努めています。	南向きの大きな窓で明るく広いリビングは、入居者が集まって新聞を読んだり居心地良く過ごせる空間となっている。また、リビングの一角は、一段高くなっている量のスペースがあり、入居者は、腰を掛けたり洗濯物を畳んだり足を延ばして寛ぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの関係性を把握した上で、必要に応じて配置替えをし、よい居場所となるような空間作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具や趣味嗜好の物を持ってきていただき、居心地よく落ち着ける環境になるよう努めています。	ホーム周辺は田畑で建物がないため、各居室は自然光が入り明るい作りとなっている。居室内は馴染みの家具や電化製品、必要に応じてポータブルトイレも設置している。また、入居者の意思で居室内からも施錠できるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	持っている能力を使い自立した生活が出来るよう工夫し、安心、安全に日々を暮らせるよう努めています。		